

病院だより101



美祢市病院等事業局管理者
高橋 睦夫

新年のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。

昨年も、幾つかの台風が沖縄地方を含めて日本全土を襲いました。特に、10月12日に襲来した台風19号の被害は甚大で、亡くなった人は全国で98人で、3人が行方不明となっています。また、千曲川を含めて71河川が決壊し、8万棟余で住宅被害がありました。この台風や豪雨の原因として、地球温暖化を指摘する人もいます。この地球温暖化に猛烈に抗議している若者がスウェーデンにいます。それは、15歳のグレタさんで、地球温暖化によってもたらされるリスクを訴え、「未来のための金曜日」の名前で気候変動学校スト運動を組織し、2018年の国連気候変動会議で演説した後、学生ストライキは毎週世界のどこかで行われています。彼女は、また、公共の場や政治家、議会に対しての率直で事実を即したスピーチで知られ、気候変動の危機に立ち向かうため、すぐさま行動を始めるように呼び掛けています。

また、昨年にも、日本人のノーベル賞受賞者が出ました。それは、ノーベル化学賞の吉野 彰氏（旭化成株式会社名誉フェロー）で、リチウム電池を開発した業績によるものです。リチウム電池は、電気自動車や携帯あるいはスマートフォンなどの電池として利用されています。リチウム電池の蓄電技術がさらに進歩し、化石燃料の必要度が減少すると、地球温暖化の進行を止めることが期待されます。

さて、昨年8月22日（金）～24日（日）にかけて、「やまぐち地域医療セミナー2019in美祢」が開催されました。セミナーの目的は、「地域のスタッフや地域住民とのコミュニケーションをはかり、地域の生活や地域医療の現状を直接肌で感じ、将来の地域医療のあり方について考える」ことでした。

自治医科大学と山口大学医学部の医学生に加えて、山口大学や県立大学の看護学科の学生、総勢34名が参加して、訪問介護や訪問診療など、地域における医療・介護の実体を重点的に体験してもらいました。学生の中には、美祢市のご家庭にホームステイをさせてもらった者が何人かいました。ご協力いただきました皆さんに対して、この欄を借りてお礼申し上げます。

また、昨年9月27日（金）に、ショッキングな報道が新聞やテレビでありました。皆さんの記憶にもあると思います。それは、9月26日（木）に開催された厚生労働省「地域医療構想ワーキンググループ会合」において、公立・公的医療機関の診療実績データの一部を分析した結果等により、一定の要件に該当する病院を再編・統合の議論が必要なら「再検証対象医療機関」として424の医療機関が公表されたことです。山口県内では、美祢市立病院と美祢市立美東病院を含めて14の医療機関がこの対象医療機関としてリスト・アップされています。この再編・統合という語句のインパクトが強く、美祢市の2つの市立病院もなくなるのではないかと不安を感じた市民の方も少なからずおられるのを耳にしました。厚生労働省の公表は配慮不足であり、その真意は地域医療構想の実現に向けて、過不足のない医療体制をつくるための議論を進めたいために一石を投じた公表であったと、後日、担当官が謝罪しております。そのようなことで、市立2病院が再編・統合される予定はありませんので、ご安心下さい。しかしながら、国が重要課題として取り組んでいる3つの改革（地域医療構想、医師偏在対策、医師の働き方改革）に、市立2病院も国・県の意向にある程度沿った形で対応していかなくてはなりません。美祢市の5年後、10年後を含めた将来の医療体制を市民の皆さんとともに、真剣に議論すべき時期に来ていると思っています。

以上、年頭にあたり、皆様方のご協力をお願いするとともに、本年も宜しくお願い申し上げます。